

令和元年第1回常滑市議会定例会代表質問発言通告

常翔会 川原和敏 議員

1 施政方針について

(1) 令和元年の始まりとともに常滑市の伊藤市政もスタートした。

第8代常滑市長として若さを生かした施策の実現により、常滑市の未来に期待するところである。

そうした中、市長の原点である「ずっと常滑。」に向けてさまざまな施策が施政方針に織り込まれ、これまでの片岡市政の継承事業を中心に公表された。

一方で「安全」「安心」「成長」の3つの柱を念頭に、伊藤市政の特色も打ち出しつつ、今後の取り組み方針も示唆されている。

そこで、施政方針に基づき、伊藤市長が今後どのような方針で市政を運営していくのか、総論的な考え及び具体的な方針について、以下4点を問う。

① 近年の災害を教訓に防災減災対策に取り組み、災害に強い常滑市を目指すため、防災ラジオの導入や各施設の耐震化、空き家対策の強化など推進するとある。

ア 市民の生命と財産を守る「安全」を順次計画的に対応していくことと思う。市域全体の強靱化に向けて各施設や構造物の調査や市域の脆弱箇所の把握に努め、年次指針を作成すべきと思うが、その考えはないか。

イ 空港島内で、より多くの交流人口が増加するため、消防署空港出張所の強化を図るべきと考えるが、消防署空港出張所のあり方を含めた今後の方針はどうか。

② 市役所本庁舎も災害発生時の市民の命を守る復興拠点と位置づけられている。

会派では、こうした背景も考慮しつつも、現計画の設計見直しを念頭に、工期短縮及び経費の削減を求めた要望書を市長に提出した。

令和元年5月29日に開催された市議会協議会では、会派の要望を受け入れる形で、設計を見直した案を公表した。災害の拠点として一刻も早い整備が求められているため、関係者の努力には深く感謝する。

- 以下6点について、それぞれ具体的な数字を示されたい。
- ア 今回の設計変更によりどれほどの工期短縮が図られるか。
 - イ 財政面から建設費の削減は必須である。特に設計金額に対し、施工会社の見積金額の提示はどうだったか。
 - ウ その中でさまざまなVE提案がなされたと思うが、どのような提案があり、かつ何項目が採用されたか。
 - エ どれほどの削減効果があったのか。
 - オ 会派の要望を受け、設計を見直したことにより、さらに削減効果はあったのか。
 - カ エレベーター数の変更や階層を減らしたことによるコストダウン効果で、ランニングコストの削減につながったか。
- ③ 生活環境の変化とともに市民の暮らしも多様化し、老後や子育てへの不安など将来を心配する人は少なくない。施政方針の中で暮らしの「安心」とあるが、どのような施策でそうした心配を払拭できるか、多くの皆さんと知恵を出し取り組んで行くことが肝要である。
- ア 市長は「守るべきもの、変えるべきもの、つないでいくもの」と述べているが、これらは具体的に何を守り、何を換え、何をつなぐのか。
 - イ 安心して子育てができる環境整備のため、中学生まで通院費の無料化を来年4月に実施するとのことだが、会派では一刻も早い導入に向け10月導入を強く求める。その考えはないか。
- ④ 常滑市は空港の好影響のおかげで、他の地域に比べ大きく成長できる自治体である。空港島内や常滑市域でさまざまな施設の開業や開発事業が計画されているが、施政方針では「次の種まき」と述べている。
- ア 市長の考える次の種まきとは何を指すのか。
 - イ 会派では、国際観光都市実現に向けて愛知県との協力体制を強化し、次の種まき施策として、その具案化のために、市としてIR誘致への前向きな取り組み表明やクルーズ船国際ターミナル実現に向けて行動すべきと考えるがその考えはないか。
 - ウ 次の種まき施策として、中部国際空港周辺への名古屋港の浚渫土砂受け入れも大切な種まきであると考えますがその対応はどうか。同時に保示地区から大谷地区まで、南部地区への受け入れを推し進めれば、市域拡大も実現し、さらに、防災面、地域活性化面からも有益と思うがそ

の考えはないか。

エ 常滑市の 20 年後 30 年後を見据えた時、その後の土地利活用により、中部国際空港周辺では、完全 24 時間化を目指して 2 本目の実現を、そして南部地区では鉄道南進、新アクセス構想にもつながると思うが、次の種まき施策に織り込むつもりはないか。

発言順序1「6番」加藤代史子議員

1 高齢者の移動手段の確保について

(1) 超高齢社会の中で高齢者の免許証の自主返納による移動手段が問題となっている。

そこで、以下を問う。

- ① 高齢者の免許証の自主返納の実態と移動手段の確保についての考えはどうか。

2 障がい者手帳のカード化について

(1) 昨年10月の社会保障審議会で、障がい者手帳の交付が現在の手帳から自治体の選択でカード化できる方向で了承されている。

そこで、以下を問う。

- ① 障がい者手帳のカード化に向けた本市の対応はどうか。

3 液体ミルクを災害備蓄品に

(1) 手軽に使えて育児の負担軽減や災害時の使用に大変期待されている液体ミルクの製造が承認され、発売された。

そこで、以下を問う。

- ① 災害時の備蓄品として液体ミルクを備蓄する考えはどうか。

4 奨学金返還支援制度の創設について

(1) 将来のまちづくりを担う人材の育成を図り、若者の市内の中小企業への就職、移住、定住促進のため、特別交付税を活用した「奨学金返還支援制度」を行う自治体がふえている。

そこで、以下を問う。

- ① 本市も市制施行65周年を機に奨学金返還支援制度を創設してはどうか。

5 市営住宅の保証人について

(1) 民法の一部を改正する法律が成立し、令和2年4月より施行される。こ

の改正で国土交通省は住宅に困窮する低所得者への住宅提供という公営住宅の目的から、保証人を確保できないために入居できないという事態が生じないように、「公営住宅管理標準条例」の見直しをして、保証人を必要としない場合なども認めるよう通知している。

そこで、以下2点を問う。

- ① 現在の市営住宅の入居に当たり、保証人の確保が困難であった事例はあるか。また、保証人の確保ができなくて入居できなかった事例はあるか。
- ② 保証人が確保できない場合の入居について条例等改正の考えはどうか。

発言順序2「12番」伊奈利信議員

1 常滑市長選挙及び常滑市議会議員一般選挙について

(1) 前常滑市長の退任により、常滑市長選挙と常滑市議会議員一般選挙が同日に行われた。「一票へこめる明日のまちづくり」と啓発標語を掲げ、市民への周知やPRも積極的に行われ、市政に対する関心も高まり、投票率向上も期待できる選挙であった。この同日選挙を終え、結果をもとに、投票所の場所や数、投票率などの分析を行い、次の選挙へ向けて対策を立てることは重要であると考えている。

また、各候補者は選挙活動を通じて、常滑市の課題克服の施策や今後のまちづくり、ひとづくりなどの自身の考えや思いを訴えてきた。今後もわかりやすく広く市民に伝え、クリーンな明るい選挙となるよう取り組んでいかなければならない。

そこで、以下2点を問う。

- ① 投票率について、以下を問う。
 - ア 全体の投票率はどうか。またどう分析するか。
 - イ 18歳から20歳まで、21歳から25歳まで、26歳から30歳までの世代ごとの投票率はどうか。
 - ウ 期日前投票の会場は、2会場を設けたが、投票者数はどうか。またその投票者数をどう分析するか。
 - エ 投票所によって投票者数、投票率ともに格差があると感じる。投票所の見直しの考えはあるか。
- ② 候補者の選挙活動について、以下を問う。

ア 市民から選挙管理委員会へ入ったクレームはあるか。またその対応はどうか。

イ 違反行為があった場合、警察の対応、選挙管理委員会の対応はどのようにするのか。

2 防犯カメラと公用車のドライブレコーダーの設置について

(1) 他地域では高齢者や若い子どもたちが巻き込まれる悲惨な事故や事件が多発している。犯罪の抑止や事故の状況確認、事件の捜査協力などに防犯カメラやドライブレコーダーの映像が用いられ、早期解決に重要な役割を果たしている。

防犯カメラは市民の安全、安心のためには必要不可欠であり、ドライブレコーダーはドライバーの安全運転意識の向上につながることはもちろんのこと、動く防犯カメラとしても大きな効果があると考えます。

そこで、以下2点を問う。

① 常滑市の防犯カメラの設置について、以下を問う。

ア 防犯カメラの設置状況はどうか。

イ 自治区や個人で設置する場合の助成制度についての考えはあるか。

ウ 警察への捜査協力で依頼はあったか。

② 常滑市の公用車のドライブレコーダーの設置について、以下を問う。

ア ドライブレコーダーの設置状況はどうか。

イ 設置後の職員の安全運転意識の変化はあったか。

ウ 映像のチェックはどう行っているか。

発言順序3「10番」中村崇春議員

1 消防団の人員確保について

(1) 常滑市消防団は地域防災だけでなく、各地区の行事に協力しており、地域になくてはならない存在である。また、常滑市は市の面積が約55平方キロメートルと知多半島で最も広く、地域防災に必要な人員は同規模の他自治体よりも多くなければならないと考える。

しかし、定数200人に対して今年度の団員数は152人であり、定員不足である。また、分団によっては年齢層も高く、人員不足と高齢化が消防団

の現在の問題と考える。

人員不足解消と団員の世代交代は喫緊の課題であり、解決策が必要である。

そこで、以下3点を問う。

- ① 現在の分団ごとの年齢層はどうか。
- ② 現在の課題とこれまでの対策はどうか。
- ③ 今後の方針はどうか。

発言順序4「1番」山田 豪 議員

1 子供を取り巻く環境の問題（「子供の貧困」、「児童虐待」）への取り組み（地域ネットワークの整備）について

(1) 近年「子どもの貧困」が社会問題化する中、日本においては「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が2013年に成立し、翌年に施行された。また、2013年には「生活保護法の一部を改正する法律」、「生活困窮者自立支援法」が成立している。

子どもの貧困対策推進法の第4条では、「地方公共団体は、基本理念にのっとり、子どもの貧困対策に関し、国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」とある。

そこで、以下2点を問う。

①子供の貧困について、以下5点を問う。

ア 本市の「子供の相対的貧困」人数はどうか。

イ 以下におけるそれぞれ全国の進学率はどうか。

(ア) 全世帯対象の大学進学率

(イ) 生活保護世帯の大学等進学率

(ウ) ひとり親家庭の子の大学等進学率

(エ) 児童養護施設の子の高校卒業後進学率

ウ 「国における子供の貧困対策の取組について（平成30年2月1日：内閣府）」の中の、「ひとり親世帯の現状①」の表中にある、それぞれの平均年間就労収入に対する納税額は幾らか。

(ア) 父子世帯の父で雇用者のうち正規（平均年間就労収入428万円）

(イ) 父子世帯の父で雇用者のうち非正規（平均年間就労収入 190 万円）

(ウ) 母子世帯の母で雇用者のうち正規（平均年間就労収入 305 万円）

(エ) 母子世帯の母で雇用者のうち非正規（平均年間就労収入 133 万円）

エ 一般的にどのような対策があるか。また、本市における支援事業は。

オ 本市の地域ネットワークの整備・活用についてはどうか。

②児童虐待について、以下2点を問う。

ア 一般的にどのような対策があるか。また、本市における支援事業は。

イ 本市の地域ネットワークの整備はどうか。

発言順序5「14番」相羽助宣議員

1 交通事故から、子供たちを守る安全対策について

滋賀県大津市の県道交差点で、自動車の衝突事故に巻き込まれて、信号待ちの保育園児らが死傷した痛ましい事故が発生した。交通事故から、子供たちを守る本市の安全対策は大丈夫か。

(1) 事故を受けて、幼稚園・保育園・認定こども園の安全対策の対応について、以下4点を問う。

- ① 散歩道・通園ルートの総点検を実施したか。
- ② 散歩道・通園ルートの危険箇所は、今までどのように対処してきたか。
- ③ 園外保育マニュアルの点検を実施したか。
- ④ 保護者から、安全対策についての要望等があったか。

(2) 事故を受けて、小中学校の児童・生徒の安全対策の対応について、以下4点を問う。

- ① 通学路の総点検を実施したか。
- ② 通学路の危険箇所は、今までどのように対処してきたか。
- ③ 交通安全教育はどのように実施しているか。
- ④ 災害、交通事故から児童の命を守るため、通学用ヘルメットの無償配布は考えているか。

(3) 県道、市道、農道の危険箇所への、歩道、ガードレール、防護柵、防護ポール等の設置について問う。

① 設置条件等があるのか。

2 ラグビーワールドカップ 2019 日本大会について

(1) 20 カ国のチームによるラグビー世界王者決定戦が、本年 9 月 20 日～11 月 2 日まで、全国 12 会場で開催される。愛知県では、豊田市の豊田スタジアムで 4 試合が開催される。観戦のために世界・日本中のラグビーファンが国内外の移動のためにセントレアを利用する。

そこで、国際空港所在地である本市の、ラグビーワールドカップの取り組みについて、以下 6 点を問う。

① セントレアにて、本市の P R 等は検討しているか。

② 開催中の、本市のホテルの宿泊予約状況はどうか。

③ 訪れるファンの方が、本市を観光できるような施策を検討しているか。

④ 県内で、参加チームのキャンプ地を受け入れる市町はあるか。

⑤ 本市のラグビー競技人口はどのくらいか。

⑥ 小中学校において、ラグビーワールドカップについて何か取り組む予定はあるか。

発言順序 6 「2 番」西 本 真 樹 議員

1 市役所新庁舎建設について

(1) 平成 31 年第 1 回定例会で、新庁舎の形状を建物をシンプルな形状にすることで経費を抑えることはできないかと質問した。新聞報道で、3 階建ての検討をすることで工期を短くし、建設費の抑制も考えるとの方針が出た。

そこで、以下 2 点を問う。

① 設計について、変更点は何か。また、それにより、工期、建設費はどうか。

② 変更後に市民に説明や意見を聞く場を設けるべきと考えるがどうか。

2 子供を虐待やいじめから守る施策について

(1) 格差と貧困を背景に、児童相談所での虐待対応件数は、2017年度は約13万4,000件と過去最多で、児童虐待防止法が制定された2000年度の約1万8,000件から7倍以上に激増している。いじめに関しても、2017年度は前年度より約9万件増の約41万件で、過去最多を更新している。

虐待やいじめは、被害にあった子供に恥辱や恐怖を与え、思いどおりに支配しようとするもので、ときに子供を死に追いつめる事件に発展する。また子供たちのその後の人生を変えてしまうような心の傷を与えるものである。

そこで、以下2点を問う。

- ① 子ども子育て支援事業計画内において、児童虐待防止対策の充実について計画され、児童虐待の発生予防から早期発見・保護・アフターケアに至る総合的な支援が進められている。現状と課題についてはどうか。
- ② 常滑市いじめ防止基本方針が出され1年余りが経過した。いじめに関する件数や対応等を問う。

発言順序7「3番」大川秀徳議員

1 熱中症対策について

(1) 平成30年7月17日、豊田市で小学1年生が校外学習から戻った後、熱中症により死亡するという痛ましい事故が発生し、これを機に全国的に小中学校の普通教室へのエアコン設置に向かう流れとなった。

本市では、6月末設置を目指していたが、全国的に同様な動きがあり、資材や施工職人の不足、施工中の安全性を考え、夏休みを最大限に活用した早期設置を計画している。なお、各学校には、教育委員会において、適切な熱中症予防の措置を検討している、との報告もあった。

例年より早い時期から熱中症が危惧される中で、以下3点を問う。

- ① 5つの工事の入札が行われたが、各工事の工期は、いつからいつまでに変更になったか。
- ② 教育委員会において検討している適切な熱中症予防の措置とは具体的に何か。
- ③ 大人の目が不足してしまう登校時・下校時に熱中症になった場合、どう

すればよいか、児童・生徒への周知は徹底されているのか。

発言順序8「4番」渡 邊 十三香 議員

1 幼児教育・保育の「無償化」について

(1) 令和元年5月の国会で、幼児教育と保育を無償化するための改正子ども・子育て支援法が成立し、本年10月の消費税引き上げに合わせ施行される予定である。民間施設への公費負担割合は、初年度こそ国が全額負担することになっているが、次年度より、国2分の1、都道府県4分の1、市町村4分の1となり、財政の圧迫が懸念される。

また、認可外保育施設においては、国が定める基準に満たなくても経過措置として5年間の猶予期間が設定され、無償化の対象とされている。このことから、劣悪な施設への公費投入が保育の質の低下につながる恐れがあり、早急に対策を検討する必要があると考える。

そこで、以下5点を問う。

- ① 次年度以降の市の負担額の予測はどうか。
- ② 市民への制度の周知の徹底はされているか。
- ③ 保育の質と保育士を確保するための取り組みはどうか。
- ④ 無償化対象外にある副食費への市の対応はどうか。
- ⑤ 基準を定める条例を制定すべきと考えるがどうか。

発言順序9「9番」井 上 恭 子 議員

1 市庁舎建設に関し、オープン化し市民と専門家の意見を取り入れる

(1) 私は昨年から新庁舎建設に関して何度となく質問を重ね、きょう子通信にも高額な市庁舎であることを訴えてきた。その結果、市民からのパブリックコメントで、「高額である、使い勝手が悪く、不効率、贅沢である」などの意見が沢山出された。その後の私の質問の中でこれらの問題は実施設計で修正できるとの回答を得たが、実施設計で大幅に修正できることに信ぴょう性を欠くため、3月の予算委員会で4階建ての市庁舎に私のみが反対をした。

その後、市民の署名や市長選で市庁舎建設が争点となったおかげか、市

庁舎は5月に入り3階となった。この建設を進めるにあたっては、時間がないかもしれないが、全ての情報を出し、きちんと市民や専門家の意見を受け入れる姿勢が必要ではないだろうか。

そこで、以下2点を問う。

- ① 新庁舎を3階にした場合、600平方メートルの延べ床面積が減少されるとある。建設費が幾ら削減されるのか。
- ② 新市庁舎の維持費が明示されていないが、どの程度だと予測されているか。現庁舎と比べてどうか。

2 新ごみ焼却場建設のより透明化を

(1) 知多南部広域環境センター（半田市、常滑市、武豊町、美浜町、南知多町のごみ焼却場）は、2市3町の首長、議員で構成する知多南部広域環境組合の土壌汚染に対する認識不足により、半田市から武豊町に場所の変更を余儀なくされた。そのため、平成29年に完成予定であったごみ焼却場が5年延長となり、常滑市だけでも約10億円の税金の無駄遣いであった。武豊町での土地購入に関しても、広大な土地を買わされ、しかも土壌汚染がわかっていながら買った側が処理費を払うという契約をしたりと、とても民間では考えられない事業が進められてきた。

常滑市もこれらの事業に今までも多額の費用を投与している。知多南部広域環境組合だけの問題とせず、より透明化を持たせるために専門家を入れ、常滑市の中での話し合いを持つべきではないか。

そこで、以下3点を問う。

- ① ようやく、鉛、フッ素などの含まれた汚染土の処理費用、対策が出されたが、今後これ以上の追加費用は出るのか。出るのであればその理由を問う。
- ② 知多南部広域環境センターのごみ処理施設整備176億円、管理運営事業約97億円で川崎重工業グループと契約が交わされた。常滑市の負担はどれくらいか。その支払い方法を問う。
- ③ クリーンセンター常武の跡地処理の予定について常滑市の見解を問う。

3 AIやビッグデータ、LINEなどで市民サービスの向上を

(1) 国はAI及びビッグデータを活用して社会のあり方を根本的に変えよう

と、2030年度に実現させようとしている。AIの利便性、効率性、有効性はすでに20年以上前から立証されているにもかかわらず、個人情報が出るとか、時期尚早だとか理由をつけ、それらの活用が自治体では非常に立ちおけている。これらを活用することで、職員の仕事の軽減もさることながら、市民サービスの向上や、無駄の削減に大いに寄与することが立証されており、直ちにこの事業を推進してほしい。

そこで、以下2点を問う。

- ① 現在の事業の中で、AIを利用している事業はあるか。
- ② 常滑市において、今後AIやビッグデータを使い、どんな事業を行うことができるかと考えているか。

発言順序 10「16番」盛田克己議員

1 通学路の安全対策について

(1) 子供を巻き込んだ悲惨な事故が起きている。市内では、校区ごとに安全点検が行われているが、本当に危険はないか。

そこで、以下2点を問う。

- ① 安全点検の実施頻度はどのようになっているか。
- ② 地域、家族の意見や思いが反映されているか。例えば、ア～オについてはどうか。

ア ガードレールがない

イ 街灯のない冬場の下校、空き家もある狭い路地、落下物、不審者の心配、民家もないところの一人での下校など

ウ 通行帯のカラー塗装

エ 道路にはみ出している電柱

オ 登校下校時に地震が発生したときの対応

2 買い物に不便な高齢者世帯の救済について

(1) 高齢者の運転免許証の返納者が増加している。

そこで、以下3点を問う。

- ① 現在、買い物不便者への対応は、どこまで実施されているか。
- ② 高齢者世帯の話は聞いているか。

- ③ 今後の施策として、何を考えているか。

3 小学校の英語教育について

- (1) 2018年度より段階的に実施されている小学校の英語教育が、2020年度から小学校3年生より本格導入される。

そこで、以下5点を問う。

- ① 現在の小学校での英語教育は、どうなっているか。
- ② A L Tの方々が全て担当しているのか。
- ③ 2020年度から小学校の英語教育はどうなるのか。
- ④ 英語の教師は足りるのか。
- ⑤ A L Tの方々の雇用はどうなるか。

発言順序 11「7番」成 田 勝 之 議員

1 第5次総合計画後期基本計画及び実行計画の策定について

- (1) 令和3年から6年までが後期の対象期間となる。平成28年度から9カ年の基本構想に基づいて、後期も基本及び実行計画が策定されると思うが、新市長となり時代の変化とともに新たな視点も含めた計画策定の作業となると考える。今年度から策定作業に取りかかっている予定であるが、どのような視点・観点で取り組んでいくのか。

そこで、以下3点を問う。

- ① 策定までのスケジュールはどうか。
- ② 前期があと一年で終了となる。前期計画をどのように評価し後期計画に反映させていくつもりか。
- ③ 新たな取り組みや視点を盛り込むつもりはあるか。あるとすればそれは何か。

2 Aichi Sky Expo のオープンに伴う対応について

- (1) 空港島内の愛知県の大型展示場施設 Aichi Sky Expo のオープンがよいよ迫ってきた。オープニングイベントも盛大に行われるようであり、多くの来場者が見込まれる。地元自治体としてかかわることはあるのか。

また、常滑市内の道路がさまざまなイベントや商業施設等の増加により、交流及び滞在人口も増加し、混雑するようになって久しい。物理的に困難なところもあり、抜本的な解決は難しいまま、いよいよオープンが間近と

なってきた。渋滞などが心配されるが、どのように対応していくつもりか。

そこで、以下4点を問う。

- ① オープンに伴うスケジュールの詳細はどのようになっているか。
- ② イベントの詳細は把握しているか。
- ③ オープンに際し常滑市として関わることはあるか。
- ④ 道路の混雑はどのように予測し、どう対処するか。

発言順序12「8番」坂本直幸議員

1 交通事故発生に対する安全対策を

(1) 全国では、最近、交差点内における交通事故で死傷者が出るという事故が発生している。

常滑市内も車両が多く流入し、抜け道にまで車が入り、通行人が脅かされている状態である。

このままでは通行人が巻き込まれる事故が発生してもおかしくない状況であるため、歩行者の安全対策の強化をする必要があるのではないか。特に、通学路となっている道路、交差点の安全対策は必要である。

そこで、以下3点を問う。

- ① 歩行者(小、中学生)を守るための安全対策はどのようにしているか。
- ② 交通事故発生件数の推移(前年度との差)を問う。
- ③ 滋賀県大津市で発生した事故後、今日までに通学路等の安全確認は行ったか。